

主要産地における令和5年産水稻の生育状況等について 第13報 (令和5年8月9日取り纏め)

作成：公益社団法人米安定供給確保支援機構情報部 (令和5年8月9日)

道府県	生育状況等		技術・防除・気象情報等公表資料(自治体、気象台等公表資料の抜粋)	令和5年度の品種構成の概観
	区分	生育状況等(自治体等公表資料の抜粋) 平年、指標等に対する遅速等		
北海道	(生育)	<p>【生育状況(8月1日現在)】</p> <p>(全道)生育は平年より早く進んでいる。(北海道農政部 8月7日付)</p> <p>(空知)生育は早く進んでいる。(空知総合振興局 8月7日付)</p> <p>(石狩)生育は平年より早い。(石狩振興局 8月7日付)</p> <p>(後志)遅速は早5日。(後志総合振興局 8月7日付)</p> <p>(胆振)7月下旬が高温多湿で経過したため生育が進み、生育は平年より早い。(胆振総合振興局 8月7日付)</p> <p>(日高)高温により生育の遅速は平年より早く進んでいる。(日高振興局 8月7日付)</p> <p>(渡島)生育は平年より早く進んでいる。(渡島総合振興局 8月7日付)</p> <p>(釧路)生育は平年より早く進んでいる。(釧路振興局 8月7日付)</p> <p>(十勝)生育は平年より早く進んでいる。(十勝総合振興局 8月7日付)</p> <p>(帯広)生育は平年より早く進んでいる。(帯広振興局 8月7日付)</p> <p>(オホーツク)生育は平年より早く進んでいる。(オホーツク総合振興局 8月7日付)</p>	<p>(全国)春からエルニニーニョ現象が続いているとみられる。今後、秋にかけてエルニニーニョ現象が弱く可能性が高い(90%)。(気象庁 7月10日付)</p> <p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 北海道地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 北海道地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁札幌管区気象台)</p> <p>北海道地方は8月13日頃からかなりの高温。 (札幌管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「なつぽし」及び「ゆめぴりか」を中心とする品種構成となっており、主品種に大きな変化はみられない。 (農林水産省 令和5年3月15日)</p> <p>(出典資料は以下同し)</p>
青森	(生育)	<p>【生育ステージ調査】</p> <p>・8月5日現在の水稻出穂状況は、県全体で100%となり、平年を大幅に上回った。 ・県全体の出穂始めは平年より5日早い7月27日、出穂最盛期は平年より6日早い7月30日、出穂終わりは平年より7日早い8月3日であった。 (青森県 8月8日付)</p> <p>【水稻作況調査(稲穀調査)】(「つがるロマン」「青天の霹靂」「まっしぐら」「はれわたり」)</p> <p>・いずれの品種も稲長、稲幅とも平年並であり、稲長×稲幅も平年並であった。「はれわたり」は稲長、稲幅とも前年並であった。 (地検)青森県産米センター農林総合研究所 8月8日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月13日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、鉄枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「まっしぐら」及び「つがるロマン」を中心とする品種構成となっている。</p>
岩手	(生育)	<p>【生育ステージ】(8月5日現在)</p> <p>・北上(農業研究センター本部)「あきたこまち」は7月29日(平年より2日早い)、「龍河のしずく」は7月31日(平年より2日早い)、「ひとめぼれ」は8月4日(平年より1日早い)に出穂期に達した。</p> <p>・軽米(東北農業研究所)「いわてつこ」は、7月31日(平年より4日早い)に出穂期に達した。 (岩手県農業研究センター 8月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月13日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、鉄枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。農オシジナル品種である「龍河のしずく」が、新冷性、耐病性に優れていることから増加傾向となっている。</p>
宮城	(生育)	<p>【出穂状況】(8月4日現在)</p> <p>・水稻作付見込面積の93.8%の水田が出穂期に達している。 (宮城県 8月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月13日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。</p>
秋田	(生育)	<p>(雄 勝) 出穂期は8月1日、平年より2日早まっている。連日の高温により、生育の早いところでは、穂揃期を迎えている。(8月4日付)</p> <p>(北秋田) 7月31日現在の管内全体の出穂状況は、43.9%(平年は18.3%)で、出穂最盛期は8月1日(平年並～3日)。(8月4日付)</p> <p>(仙 北) 管内の「あきたこまち」は8月1日に出穂期を迎えている。出穂のそらはいは良好とみられ、「サキホコ」も田植えが早かったことで出穂が始まっている。(8月4日付)</p> <p>(山 本) 管内の出穂期は平年より3日早い、7月30日。これまで気温の高い日が続く、出穂が早まったとみられる。(8月4日付)</p> <p>(秋田県農政課)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月13日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病、ニカメイガ、斑点米カメムシ、鉄枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。</p>
山形	(生育)	<p>・「はえぬき」「雪若丸」「つや姫」は出穂期～穂揃期となっている。 (山形県 8月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 東北地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月13日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「はえぬき」及び「つや姫」を中心とする品種構成となっている。新品種「雪若丸」は増加傾向にある。</p>
福島	(生育)	<p>(農業総合センターの作柄解析試験における生育概況)</p> <p>・農業総合センターの生育調査における「ひとめぼれ」の出穂期は、本部(郡山市)が7月31日で平年より3日早く、会津地域研究所(会津坂下町)が7月29日で平年並、茨城地域研究所(相馬市)が7月29日で平年より2日早くなっている。 (福島県農林水産部農業振興課 8月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 東北地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は平年並か高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁仙台管区気象台)</p> <p>東北地方は8月13日頃からかなりの高温。 (仙台管区気象台)</p> <p>向こう1か月のいもち病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「ひとめぼれ」を中心とする品種構成となっている。近年、収量水準の高い「天のつる」が増加しており、新冷米への転換が増加していることから出率はやや低下したものの、まだ増加が見込まれる。</p>
茨城	(生育)	<p>【8月2日現在、水戸市】</p> <p>・出穂期は「あきたこまち」が平年より3日早い7月13日、「ふくまるS」が平年より2日早い7月16日、「コシヒカリ」が平年より4日早い7月20日だった。 ・発熟推算気温による成熟期の予測は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で3日早い8月20日、「コシヒカリ」で3日早い8月31日である。 (茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月3日付)</p> <p>【8月7日現在、龍ヶ崎市】</p> <p>・出穂期は「あきたこまち」で平年より1日早い7月11日、「ふくまるS」で平年より3日早い7月13日、「コシヒカリ」で6日早い7月18日だった。 ・今後気温が平年並に推移した場合、発熟推算気温による成熟期の予測は、「あきたこまち」で平年より3日早い8月17日、「ふくまるS」で4日早い8月19日、「コシヒカリ」で7日早い8月25日である。 (茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁)</p> <p>向こう1か月のいもち病、ニカメイガ、稲葉枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちの星」が増加傾向にある。</p>
栃木	(生育)	<p>【生育概況】(7月20日調査)</p> <p>・草丈は出穂している影響もあるが前年よりも高い。 ・早稲コシヒカリの受数は多いところと少ないところがあるが全体的にはやや少ない。 ・早稲とちの星の受数はやや少ない。 ・葉色は前年並～やや淡く、生育量(生育診断値)は前年を下回っている。 ・各地とも出穂が近づいている。農試では1986年以降最も早い出穂期となる見込み</p> <p>【コシヒカリ：前年比】草丈105% 葉数98% 葉色±0.0 【とちの星：前年比】草丈101% 葉数95% 葉色-0.5 【普通稲とちの星】5月播 草丈100% 葉数104% 葉齢+0.4 葉色-1.2 6月播 草丈 83% 葉数102% 葉齢+0.6 葉色+0.3</p> <p>(栃木県農政課経営技術課 7月21日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】 関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。 降水量と日照時間は、ほぼ平年並の見込み。 (気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】 関東甲信地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。 降水量は平年並か多い見込み。 (気象庁)</p> <p>向こう1か月のいもち病、ニカメイガ、稲葉枯病の発生が多いと予想される。 (農林水産省 7月26日付)</p>	<p>・「コシヒカリ」を中心とする品種構成となっている。なお、オリジナル品種「とちの星」が増加傾向にある。</p>

千葉	<p>(生育状況等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月は平均気温が高く、日照時間が長い状況で推移した。このため、幼穂形成期から出穂期までの日数が短くなり、「ふさおとめ」「ふさこがね」は平均より早く、「コンヒカリ」「龍すずり」は約4日早く出穂を迎えている。なお、「ふさおとめ」は穂数がやや少なめで穂長がやや長めとなっている。いづれ品種も、出穂期の高さは平均並りかやや高くなっている。 成熟期は4月20日播種の「ふさおとめ」が8月8日から、「ふさこがね」は8月14日から、「コンヒカリ」「龍すずり」は8月20日から予測される。なお、播種よりも気温が低下したり水が不足した場合は成熟期が早まる可能性がある。 <p>(千葉県 7月26日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】関東甲信越地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】関東甲信越地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁)</p> <p>向こう1か月は、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月25日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」「ふさこがね」及び「ふさおとめ」を中心とする品種構成となっている。令和2年産から新品種「龍すずり」の本格栽培が開始
新潟	<ul style="list-style-type: none"> 早生は早熟初中期、「コンヒカリ」は出穂期から穂増期、「新之助」は間もなく出穂が始まる時期となっている。 <p>(新潟県 8月4日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月13日頃からかなりの高温。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」及び「こいしあき」を中心とする品種構成で、近年「コンヒカリ」が減少し、収量水準の高い「ゆきんぞり」「つぎあり」及び「みずほの輝き」が増加傾向にある。また、新では新品種「新之助」(晩生種)の作付拡大を推奨している。
富山	<p>【7月18日現在】(生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」 平均に比べ、草丈、葉色、葉数は、葉数はやや少なくなっている。幼穂形成期は、平均に比べ1日早い7月10日となった。今後、平均並の気温で推移した場合、出穂期は平均より1日早い7月31日頃と見込まれる。 「てんたくく」 5月3日播種の「てんたくく」の出穂期は、近年より1日早い7月15日となった。今後、平均並の気温で推移した場合、出穂期は8月19日頃と見込まれる。 「てんこもり」 平均に比べ、草丈、葉色は、葉数は2葉遅れている。幼穂形成期は、平均に比べ1日遅い7月13日となった。今後、平均並の気温で推移した場合、出穂期は平均に比べ1日遅い8月4日頃と見込まれる。 「富富富」 近年に比べ、草丈、葉数、葉色は、葉数は並であった。幼穂形成期は、近年より1日早い7月12日となった。今後、気温が平均並に推移すると、出穂期は近年より1日早い8月3日頃と見込まれる。 <p>(富山県 7月18日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月13日頃からかなりの高温。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル新品種「こいしあき」「つぎあり」及び「てんこもり」の県オリジナル品種が増加傾向にある。
石川	<p>【6月8日現在】</p> <ul style="list-style-type: none"> (草丈) 「コンヒカリ」：平均比85～134% (県平均)107%、加賀：104%、能登：110% 平均並～長く、前年に比べてやや長い。 「ゆめみづほ」：平均比80～121% (県平均)106%、加賀：105%、能登：112% 平均に比べてやや長い～長く、前年に比べて長い。 「ひやくまん殿」：近年比89%～129% (県平均)106%、加賀：112%、能登：103% 近年並～長く、前年に比べてやや長い～長い。 (葉数) 「コンヒカリ」：平均比76～159% (県平均)104% 加賀：105%、能登101% 平均及び前年並。 「ゆめみづほ」：平均比84～166% (県平均)111%、加賀：104%、能登126% 平均及び前年に比べて並～多い。 「ひやくまん殿」：近年比72～189% (県平均)114%、加賀：105%、能登129% 近年及び前年に比べて並～多い。 (葉齢) 葉齢異質は、「コンヒカリ」は平均及び前年並。「ゆめみづほ」も平均及び前年並。「ひやくまん殿」は近年及び前年と比べ2日程度早い。 <p>(石川県農業総合センター農業試験場 6月9日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月13日頃からかなりの高温。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」及び「ゆめみづほ」を中心とする品種構成であるが、近年、県オリジナル新品種「こいしあき」「つぎあり」が増加傾向にある。
福井	<p>【7月12日調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月2日播種「ハナエチゼン」の出穂期は7月14日、成熟期予測は8月13日。 <p>※気象条件によって変動する。登熟の進み方には地域差がある。</p> <p>(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月8日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】北陸地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】北陸地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>北陸地方は8月13日頃からかなりの高温。(気象庁新潟地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガ、斑点米カメムシの発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」及び「ハナエチゼン」を中心とする品種構成である。なお、新品種である「いちほろ」が増加傾向にある。
長野	<p>【水稲の生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月下旬以降の高い気温の影響で、生育はよくなり進んでいる。定点圃場の調査では、「あきたこまち」の出穂期は7月22日で平均より5日早。「コンヒカリ」の出穂期は8月2日で平均より6日早。以上から生育は45～6日程度進んでいると思われる。 8月1日現在、現地の平地地の早生品種(「あきたこまち」、「真山崎」等)は穂増い～穂増期。4月末～5月初旬播種の「コンヒカリ」は穂増期。5月上旬播種の「コンヒカリ」は出穂期。5月中旬播種の「コンヒカリ」は出穂期～出穂期を迎えている。出穂が早まっているため、成熟期も平均よりかなり早まること予想される。 <p>(松本農業農村支援センター技術普及課 8月1日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】関東甲信越地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】関東甲信越地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」及び「あきたこまち」を中心とする品種構成に大きな変化はない。県オリジナル品種「黒さか」の導入を推進している。
滋賀	<p>【水稲作況調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みずがみ」「コンヒカリ」とともに草丈は平均並、葉数は少ない(7月10日)。 葉色は、「みずがみ」は平均並、「コンヒカリ」は平均より薄く、主幹葉数は「みずがみ」は平均より0.2枚多く、「コンヒカリ」は0.3枚多い(7月20日)。 出穂期は、「みずがみ」では平均より1日遅い7月23日、「コンヒカリ」は平均と同じ7月27日であった。 <p>(滋賀県農業技術普及センター 7月27日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は日本海側で8月13日頃からかなりの高温。(気象庁大阪府気象台)</p> <p>向こう1か月の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月25日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」、「キヌヒカリ」、「みずがみ」及び「白米晴」を中心とする品種構成である。近年、「黒さか」が導入された「みずがみ」の作付が推進されている。
兵庫	<p>【7月31日調査】</p> <p>(県西部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈が平均並～やや長く、葉数はやや少ない。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平均に比べて長く、葉数は「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」が少ない。 <p>(県北部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 草丈は平均並、葉数は平均並～極めて多い。出穂は「コンヒカリ」で平均よりやや早く見込みである。 <p>(兵庫県 8月4日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】近畿地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は日本海側で、ほぼ平均並、太平洋側で平均並が多く、日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁大阪府気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】近畿地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁大阪府気象台)</p> <p>近畿地方は日本海側で8月13日頃からかなりの高温。(気象庁大阪府気象台)</p> <p>向こう1か月の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」「ヒノヒカリ」「キヌヒカリ」及び「白田晴」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」の作付拡大を推進している。
岡山	<p>【生育状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早生品種は、出穂が平均より早く始まり、葉数は平均並～少ない。 このまま高温傾向が続くと、早生品種の成熟が早まると予想される。 中生・晩生品種は、分けつ遅期～幼穂形成期で、葉数は概ね平均並である。 <p>(岡山県農業生産総合センター 7月31日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月13日頃からかなりの高温。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガともち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「アケボノ」、「きぬむすめ」、「コンヒカリ」「あきたこまち」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。近年、「きぬむすめ」が増加傾向となっている。
広島	<p>【7月28日調査】広島県総合技術研究所農業技術センター一園場(東広島市八本松町)</p> <p>()内は1年並</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」(密植) 草丈：90.9(99.7)cm、葉数：488(375)本/m²、葉色(SPAD値)33.1(34.0)、葉齢12.1(12.9) 「あきつらん」(密植) 草丈：76.0(83.3)cm、葉数：477(399)本/m²、葉色(SPAD値)32.6(34.8)、葉齢13.4(13.9) 「ヒノヒカリ」(密植) 草丈：75.9(84.2)cm、葉数：487(409)本/m²、葉色(SPAD値)29.2(31.9) 「恋の予感」(普通播) 草丈：78.2cm、葉数：368本/m²、葉色(SPAD値)28.6、葉齢13.2 「あきさかり」(普通播) 草丈：79.0cm、葉数：450本/m²、葉色(SPAD値)37.2、葉齢12.8 <p>(広島県総合技術研究所農業技術センター 8月3日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見通し 8月5日～9月4日】中国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量と日照時間は、ほぼ平均並の見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見通し 8月～10月】中国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平均並が多い見込み。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>中国地方は8月13日頃からかなりの高温。(気象庁広島地方気象台)</p> <p>向こう1か月ニカメイガともち病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「コンヒカリ」、「あきさかり」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。

(生育状況等)			
愛 媛	<p>【2023年度「ひめの深」の生育状況（8月3日現在）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月14日移植、田植え後50日時点の茎数は22.4本/株で昨年よりやや少なく、草丈、葉色（SPAD値）はいずれも平年より低い。 <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月22日移植 7月10日調査 <ul style="list-style-type: none"> 草丈 (cm) 61.4、茎数 (本/m²) 362、一株あたり茎数 (本/株) 23.9、葉色 (SPAD値) 32.8 6月1日移植 7月21日調査 <ul style="list-style-type: none"> 草丈 (cm) 68.4、茎数 (本/m²) 320、一株あたり茎数 (本/株) 21.1、葉色 (SPAD値) 32.1 6月14日移植 8月3日調査 <ul style="list-style-type: none"> 草丈 (cm) 67.6、茎数 (本/m²) 339、一株あたり茎数 (本/株) 22.4、葉色 (SPAD値) 31.4 <p>(愛媛県農林水産研究所 8月7日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月5日～9月4日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月7月23日、斑点米カメムシ、繭栗枯病、いもち病、ごま葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「あきたこまち」及び「にこまる」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更が定着してきている。
高 知	<p>【7月情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> 【早期稲】 出穂時期は平年並であったが、収穫時期は平年並～やや遅く、「雨国そだち」は7月21日頃から、「よさこい美人」は28日頃から、「コシヒカリ」は8月初頃からとなりそうである。収穫量は平年並になる見込み。 【普通期稲】 草丈、茎数とも平年並で、全体的に間む間調に生育しているが、寒いもちの発生が見られるほ場があり、ズリ込み症状のほ場もある。出穂時期の遅い品種では穀粒腐敗が発生し始めている。 <p>(高知県病害虫防除所 8月3日付)</p> <p>【作柄の良否】 (見込み) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(早期栽培) やや不良。(農林水産省 7月31日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月5日～9月4日】</p> <p>四国地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 8月～10月】</p> <p>四国地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁高松地方気象台)</p> <p>向こう1か月7月23日、斑点米カメムシ、繭栗枯病、いもち病、ごま葉枯病の発生が多いと予想される。(農林水産省 7月26日付)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」、普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。
福 岡	<p>【7月14日調査】 (農林業総合試験場における生育概況)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「夢つくし」の草丈は、平年より11%長く、茎数が23%少なかった。「元氣つくし」および「ヒノヒカリ」では、平年と比べ、草丈は平年並～15%長く、茎数は16～43%少なかった。「爽りつくし」では、前8年と比べ、草丈は3%長く、茎数は38%少なかった。 各品種とも主稈葉数は平年並～平年より0.6葉ほど少なく、生育は平年並～やや遅れている。 <p>(生育) (福岡県・福岡県米品質改善協会 7月19日付)</p>	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月5日～9月4日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「夢つくし」及び「元氣つくし」を中心とする品種構成であるが、「元氣つくし」が増加傾向となっている。種では「爽りつくし」の拡大を推奨している。
熊 本	<p>【作柄の良否】 (見込み) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(早期栽培) 平年並。(農林水産省 7月31日付) <p>(生育) 【作物の生育状況 (7月中旬)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲は分けつ期。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月26日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月5日～9月4日】</p> <p>九州北部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 8月～10月】</p> <p>九州北部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は平年並か多い見込み。(気象庁福岡管区気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒノヒカリ」「藤のくまさん」及び「コシヒカリ」を中心とする品種構成である。「くまさんの輝き」はリーディング品種として取扱いが年々拡大している。
宮 崎	<p>【作柄の良否】 (見込み) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(早期栽培) 平年並。(農林水産省 7月31日付) <p>(生育) 【作物の生育状況 (7月中旬)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通期水稲は分けつ期。(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月26日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月5日～9月4日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「コシヒカリ」及び「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成に大きな変化はない。「ゆめ355」への作付誘導が進められている。
鹿 児 島	<p>【作柄の良否】 (見込み) (7月15日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(早期栽培) やや不良。(農林水産省 7月31日付) 	<p>【向こう1か月の天候の見直し 8月5日～9月4日】</p> <p>九州南部地方の向こう1か月の平均気温は平年並か高い見込み。降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p> <p>【向こう3か月の天候の見直し 8月～10月】</p> <p>九州南部地方の向こう3か月の平均気温は高い見込み。降水量は、ほぼ平年並の見込み。(気象庁鹿児島地方気象台)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期栽培は「コシヒカリ」普通栽培は「ヒノヒカリ」を中心とする品種構成である。早期栽培では、収量水準の高い「なつづか」への移行が急速に進んでいる。

注1：園芸及び地方自治体、出先機関等がホームページで公表している資料を米穀情報情報部で取り纏め。
注2：生育状況等（農林業総合試験場の試験）については令和5年8月6日 17時時点での取り纏め。
注3：夏播期は赤字で示した。

引用資料:

農作物の生育状況 8月1日現在(北海道農政部 8月7日)、
農作物生育状況 8月1日現在(北海道空知総合振興局 8月7日)、
農作物生育状況 8月1日現在(北海道石狩振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道後志総合振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道胆振総合振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道日高振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道渡島総合振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道檜山振興局 8月7日)、
農作物の生育状況 8月1日現在(北海道上川総合振興局 8月7日)、
農作物生育状況調査の概要 8月1日現在(北海道留萌振興局 8月7日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 8月1日現在(北海道オホーツク総合振興局 8月7日)、
8月5日現在水稲出穂状況(青森県「攻めの農林水産業」推進本部 8月8日)、
水稲作況調査(初穀調査)((地独)青森県産業技術センター農林総合研究所 8月7日)、
令和5年度水稲生育定期調査結果No.6(岩手県農業研究センター 8月7日)、
令和5年度水稲の出穂状況について(8月4日現在)(宮城県みやぎ米推進課生産販売班 8月7日)、
生育状況報告(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 8月9日閲覧)、
米づくり技術情報No.15(山形県 8月7日)、
主要な農作物の生育情報令和5年度第5号(福島県農林水産部農業振興課 8月9日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 8月3日)、
農研速報(茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室 8月7日)、
水稲生育診断速報No.5(栃木県農政部経営技術課 7月21日)、
水稲の生育と当面の対策第5報(千葉県農林水産部 7月26日)、
水稲の生育と今後の管理対策(高温対策臨時号 第2号)(新潟県農林水産部 8月4日)、
TACS情報第8号(富山県 7月18日)、
令和5年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-3号)(石川県農林総合研究センター 6月9日)、
稲作情報No.13(水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 8月8日)、
令和5年度水稲生育診断情報第12号(松本農業農村支援センター 8月1日)、
令和5年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月27日)、
令和5年度兵庫県農業気象技術情報No.4(8月情報)(兵庫県農林水産部 8月4日)、
水稲の高温による品質低下防止対策について(岡山県農林水産総合センター、岡山県農業気象技術担当者会議 7月31日)、
水稲生育状況(令和5年7月28日現在)(広島県立総合技術研究所農業技術センター 8月3日)、
2023年度「ひめの魂」の生育状況(8月3日現在)(愛媛県農林水産研究所 8月7日)、
福岡県米麦大豆生産改善速報第2号(福岡県、福岡県米麦品質改善協会 7月19日)、
令和5年度病害虫発生予報第4号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 7月26日)、

北海道地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日札幌管区気象台)、東北地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日気象庁)、
北陸地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日大阪管区気象台)、中国地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日広島地方気象台)、
四国地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう1か月の天候の見通し(8月3日鹿児島地方気象台)、

北海道地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日札幌管区気象台)、東北地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日仙台管区気象台)、関東甲信地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日気象庁)、
北陸地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日新潟地方気象台)、近畿地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日大阪管区気象台)、中国地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日広島地方気象台)、
四国地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日高松地方気象台)、九州北部地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日福岡管区気象台)、
九州南部・奄美地方方向こう3か月の天候の見通し(7月25日鹿児島地方気象台)、

早期天候情報(8月7日14時30分 気象庁)、
エルニーニョ監視速報(No.370)について(気象庁 7月10日)、

令和5年度水稲の西南暖地における早期栽培等の作柄概況(7月15日現在)(農林水産省 7月31日)
令和5年度病害虫発生予報第5号(水稲特集)(農林水産省 7月26日)、
令和5年度水稲の10a当たり平年収量に係る生産事情(都道府県別)(農林水産省 3月15日)